

「旦那さん、返して来まへうか」

「これ、莫痴^{ばか}な事を云ひなさんな、捨兒を返しに行く先が有るか、それとも捨てた親は拾ひ主の有るまで傍を宜う放れんと云ふが、傍に誰か怪しい人でも居なさるか」

「イーエ、何誰も居てゝやござりまへん」

「そんなら何處へ返しに行くのんぢや」

「お隣さんへ」

「コレ阿呆な事を云ひなさんな、お隣さんが何で捨兒をなさる」

「それでも、お隣さんで拾ひはつたんに違ひおまへん」

「なんで其様な事が判つたんぢや」

「最初隣へ抛つたら隣が先に氣が附いたので、近所が寝て居るもんやさかいに、隣から宅の門外^{かど}へ持つて来はつたんだす」

「何でそれが判つたんや」

「入物が蜜柑籠だすさかいに、隣から此家へ引摺つて来た土が形がついてます」

「ア、毒々な事をしなさるなア、まアお隣さんなら、其位の事をしなさるぢやろう、此處四丁界限であれ位な吝嗇家は無いのぢやから、ハ、、、、私處と認めをつけて抛りなさつたんやで、仕方が

ない、情は人の爲ならずと云ふ事が有る、此方へ持つて這入りなされ」

「エ、旦那はん一寸見て御覽、斯ないな蜜柑籠だす」

「見るも可哀想に、其の上の布切^かを取つてみなされ」

「へエ、ア、旦那はん、ゑらい事だすせ」

「何んぢや、呼吸でも止切れて居るか」

「イ、エ」

「ゑらい事とは何ぢや」

「御兄弟が居てゝでござります」

「ナニ、御兄弟が、そら騒動やだな、何人ござるね」

「三疋居てゝでござります」

「三疋と云ふ事が有るか、三人ぢやろう」

「イエ、三疋だす」

「三疋て、なんや」

「犬だす」

「それを先に云はんか、吃驚したがな。犬でも生き物ぢや、ほつて置く譯にはいかん、一寸出してみ